

平成 21 年 4 月 1 日

定期検査中の 1 号機における原子炉格納容器隔離弁の不具合について

東京電力株式会社  
福島第二原子力発電所

< 概要 >

( 事象の発生状況 )

- ・平成 21 年 3 月 31 日、定期検査で停止中の 1 号機において、原子炉等を収納している容器に接続している配管の弁に微小な穴を確認しました。

( 今後の対応 )

- ・原因について詳細に調査します。

( 安全性、外部への影響 )

- ・現在、全ての制御棒が全挿入状態にあり、原子炉の安全上の問題はありません。
- ・また、本事象による外部への放射能の影響はありません。

( 公表区分 )

- ・本事象は公表区分 ( 信頼性向上のために公表する事象 ) としてお知らせするものです。詳細は以下のとおりです。

1 . 事象の発生状況

平成 21 年 3 月 31 日、定期検査で停止中の 1 号機において、原子炉格納容器内の圧力抑制室<sup>\*1</sup>に窒素を供給する配管に設置されている原子炉格納容器隔離弁<sup>\*2</sup>の点検作業として弁単体の空気漏えい試験を行っていたところ、午前 11 時 48 分頃、当該弁の空気の圧力が低下する事象を確認しました。

その後、浸透探傷検査<sup>\*3</sup>により詳細に調査したところ、当該弁に微小な穴を確認しました。

2 . 今後の対応

今後、原因について詳細に調査します。

3 . 安全性、外部への影響

現在、原子炉は全制御棒が全挿入状態であり、原子炉の安全上の問題はありません。  
また、本事象による外部への放射能の影響はありません。

以 上

\* 1 圧力抑制室

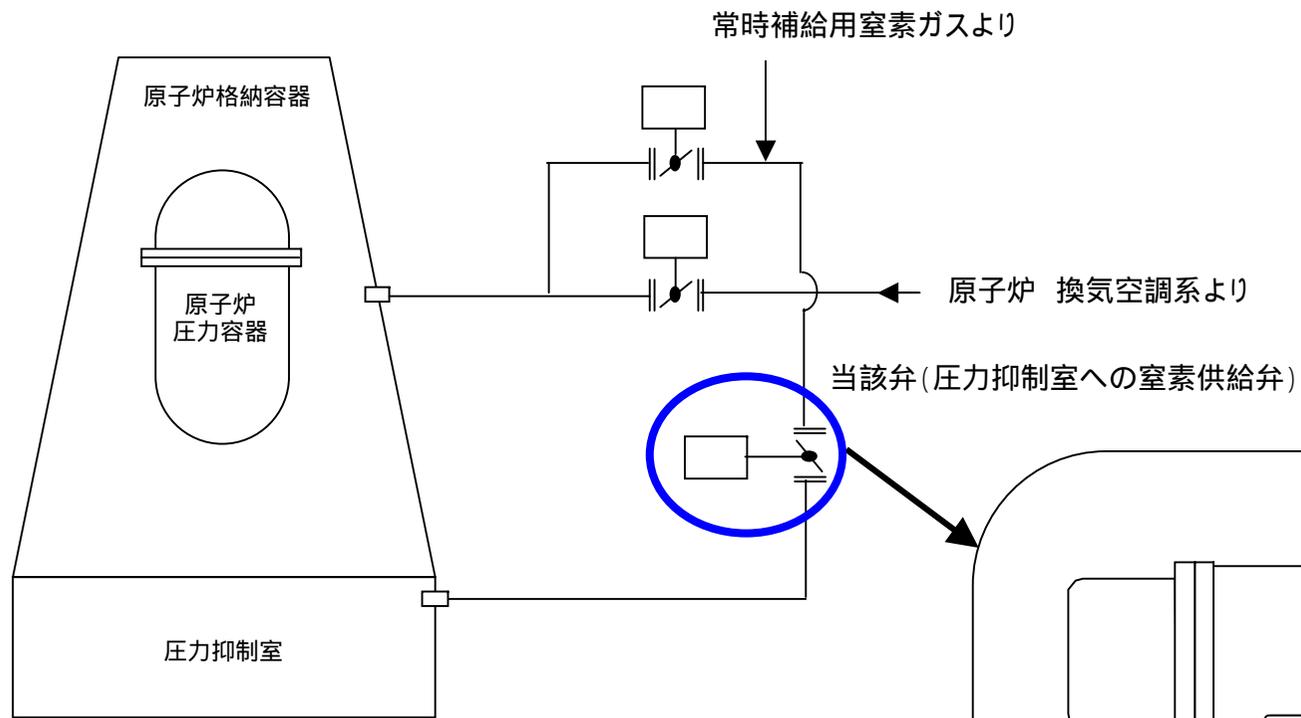
原子炉格納容器の下部にあり、原子炉圧力容器の圧力が上昇した場合にその蒸気を導いて冷却し、原子炉格納容器内の圧力を低下させる設備。また、原子炉冷却材喪失事故時の非常用炉心冷却系の水源として水を貯蔵する役割もある。

\* 2 原子炉格納容器隔離弁

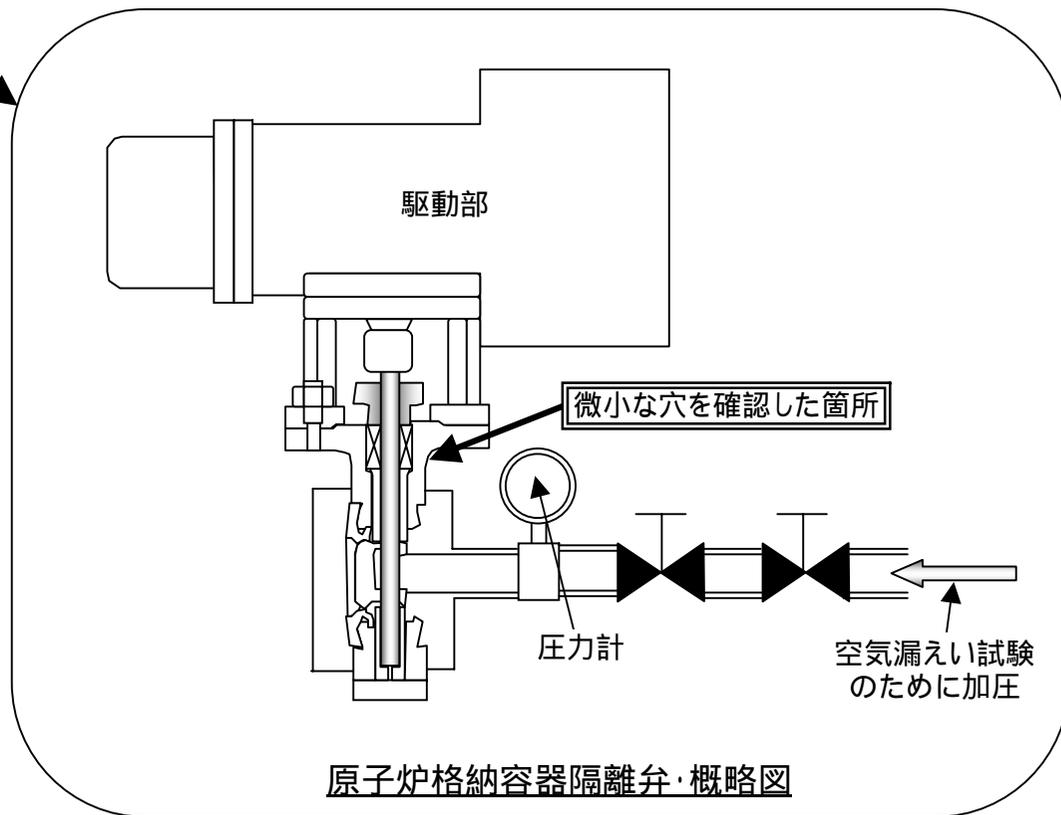
原子炉格納容器は、窒素を供給することで酸素濃度を下げ、可燃性ガスの反応を防止している。当該弁は、原子炉格納容器と窒素を供給する系統を隔離するための弁。また、事故時に放射性物質が外部に放出されないような役割をもつ。

\* 3 浸透探傷検査

非破壊検査の一つ。試験体表面に赤色や蛍光の浸透性のよい検査液を塗布し、指示模様を観察することによりひびなどの欠陥を調査する試験方法。



原子炉格納容器に窒素を供給する系統の概略図



原子炉格納容器隔離弁・概略図